

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4270800289		
法人名	医療法人社団 壮志会		
事業所名	グループホームゆうゆう		
所在地	長崎県松浦市御厨町里免397番地10		
自己評価作成日	令和3年10月31日	評価結果市町村受理日	令和4年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和4年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気、住み慣れた地域で共同生活を送り、楽しく明るい生活が送れるように取り組んでいる。母体が医院の為に安心した医療が受けられ、系列には介護老人保健施設・介護老人福祉施設があり契約後の事にも安心して頂ける。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

松浦鉄道御厨駅の近隣にあるホームで、道路を隔てた場所に母体の病院があり、入居者の体調変化時等には即応体制を整えることで家族の安心感に繋がっている。ホームの理念『ゆったりと楽しく自由にありのままに』を念頭に、入居者が決められた時間に促われず自由に過ごしていただけるよう支援している。職員は入居者の得意なことや本人の出番がある場面づくりなどアイデアを出し合い、塗り絵やビーチボールゲーム等個別のレクリエーションの実施のほか、各種行事や作品作りなど入居者の残存能力を活かし入居者一人ひとりが楽しみごとを見出せるよう支援している。入居者がさりげなくカーテンを開けて遮光したり、入居者同士で新聞を回覧する等、入居者間の関係性も良好で、職員による優しい笑顔と声かけがより一層ホームの雰囲気を和ませている。現在、コロナ禍で馴染みの関係を継続することが難しくなる中、地域の互助会の継続や、買い物支援、ホームでの整容支援等、これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。入居者の自由な生き方を尊重した支援の継続に今後も期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

グループホームゆうゆう 1階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はフロアーの見える所に掲示しており共有して実践を心掛けている。	ホームの理念を1階・2階ともにフロアに掲げている。入居者一人ひとりのペースに応じてゆっくりと過ごしてもらえるよう本人の希望に沿った食事時間や居室での過ごし方により入居者本位の生活に繋げている。各階で介護の目標を立て、理念に沿った支援と年間の振り返りを行い、次の目標設定に活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との交流はできなかったが、ホームだよりを配置しお知らせしている。	コロナ禍により地域との交流が制限されているが、元民生委員からの七夕の竹の手配や、公民館祭りへの出展の誘い等、地域の様々な情報を得ている。入居者が制作した作品を出展したり、ホームだよりを地域の回覧板を通じて回覧してもらう等、地域住民にホームの情報を伝え、地域との交流を継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館祭りに作品を出品したり、見学に行ったりし理解や支援して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ禍で家族等の参加ができていない、職員数名で会議を行い会議録を作成し地域・市役所・家族等に送っている。	コロナ禍の為、通常の運営推進会議は開催できず、職員数名が出席して同会議を開催している。議題には「現状報告」、「行事報告」、「ヒヤリハット」、「事故報告」、「その他」として1階、2階よりそれぞれ報告内容を記載し議事録として残している。議事録は構成メンバーや地域、家族にも送付している。	コロナ禍であり集合形式の会議が開催できないが、同会議を通じて外部の構成メンバーから質問や意見等を受けることがサービスの質の確保を図る上で重要であることを踏まえ、書面会議であっても双方向の会議となるよう工夫することが望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍で市町村の会議もなく、交流できなかった。ケアマネ間の連絡はできている。	地域包括支援センターへホームの空床状況等について情報を提供している。市担当職員とは生活保護の手続きで連絡等もある。介護支援専門員協議会にホームの介護支援専門員が参加し、会議を通じて地域の情報交換や他事業所の事例や状況等を入手している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が理解した上で一人ひとりの想いに寄り添い身体拘束をしない取り組みをしている。コールマットは、その方の動きに気付き一緒に行動する為に活用している。夜間のみ施錠を行い防犯に徹している。	ホームは夜間のみ玄関施錠を行うこととしている。身体拘束適正化委員会を定期的に開催している。月1回、身体拘束や虐待についての勉強会を開催し職員へ周知と理解を図っている。全職員に向け支援に関するアンケート調査を実施し、挙げた内容を委員会の議題に挙げ、ホーム全体で身体拘束や虐待のない支援の取り組みに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のミーティングに於いて防止に努め、身体拘束委員会で「虐待につながるグレーゾーン」をテーマとして言葉遣いや、職員のストレスなどを取り上げた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要とされる方はいないが、学ぶ機会があれば参加し、必要性が出て来た時は活用、支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時説明・理解・納得し入居され契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート調査を行い、要望等あれば運営に反映させたい。	コロナ禍の為、家族と入居者が直接会って会話がすることが困難な中、電話でのやり取りや入居者の日頃の様子を手紙に書いて送付している。感染状況に応じて窓越しでの面会を実施することもある。担当職員が中心となって家族に連絡を取り、意見や意向を聞き取って記録に残し、職員間で情報を共有している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で意見や提案を出し合い反映している	月1回開催する職員会議では入居者の支援の在り方について職員より活発な意見が出されている。入居して間もない方への帰宅願望や入浴拒否への対応方法等、職員それぞれが意見を出し合い、常に真剣な姿勢で取り組んでいる。管理者は日ごろから職員の意見や相談を受け、柔軟に対応するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境を作ってもらっているが、向上心を持てるような給与水準をお願いしたい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はコロナ禍で遠方には行けていないが、研修に行き働きながらトレーニングしている職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流する機会が無くなっている。個人的には交流している職員もいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、安心した生活が送れるように、ニーズを十分に聞き入れ信頼関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	その方・家族の方の意見、要望を充分に聞くよう努めている。いつでも相談、要望を聞けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時医療機関等の意見も参考にし、支援とサービスの反映に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は可能な限り本人にして頂き出来ない所は介助し、いつも共に生活する者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙で近況報告を行い、ケアプランを通じて家族の理解・協力・支援をお願いできる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームの生活が長くなるとこれまでの付き合いは希薄になりがちなのでできるだけ途切れないように支援に努めている。	コロナ禍以前は教会から神父がホームに訪れるなど、以前からの関係を継続できる支援に取り組んでいた。コロナ禍の為、馴染みの人や場との継続した支援が困難な状況ではあるが、ドライブを通じて自宅に行き、郵便物の中にあつた寺院からの手紙により繋がりを継続できるよう支援し、職員が入居者とともに互助会費を持参した事例が窺えた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアーで手作業をしたり、レクリエーションなどで仲良く過ごされている。入居者さんの様子を観察し職員も一緒に支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、会った時は声掛けしその後の様子を聞いたりしている。その中で相談があれば出来る事は支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時意向をお聞きしケアプランのニーズにあげ、検討している。本人の希望に添えるよう努めている。	職員は入居者とのコミュニケーションを通じてその方の思いを把握し、本人の希望に沿い、ありのままの姿で生活できるよう支援している。担当職員を中心に個別の支援に努め、家族には手紙で日常生活の様子を伝えたり、電話で家族の意向を把握している。介護計画の見直し時には家族の意向を検討し、必要に応じて介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人よりお話をお聞きし把握しその人らしく暮らせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人のペースで、その人に合った一日の過ごし方を職員全員で把握出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のサービス担当者会議でケアプランの見直し・検討を行っている。また、状態の変化に併せて随時モニタリングを行っている。	介護計画は3か月毎に見直しを行っている。入居者の担当職員がモニタリングやアセスメントを担当し、介護計画見直し時に担当者会議を通じて他の職員より意見を出し合い、計画作成担当者が介護計画書を作成している。更に見直しが必要な場合は入居者の状態に応じて介護計画を変更し、その都度の心身状態に合わせた計画を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し申し送りで情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに合ったサービスの提供を心掛け、柔軟性をもって希望に添ったサービスの提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用し、安全で豊かな暮らしを楽しめるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医院の為、納得して医療を受けられている。他科受診の場合はご家族の協力もお願いしている。	入居時に本人や家族が希望するかかりつけ医を確認している。現在は全入居者が母体病院の医師をかかりつけ医としている。月1回、かかりつけ医より訪問診療を受け、他科への受診は家族による同行で対応し、必要場合は職員が受診に同行している。週1回、訪問看護による健康管理が行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時情報や気づきを報告相談し適切な受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は医院との情報交換に努め、退院時は情報提供書をもらい、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合い、できることは行っている。他施設や医療機関へ転所していただくこともある。	原則としてホームで看取りの支援は行っていない。入居者や家族に終末期における対応や重度化急性期対応についての指針を説明し、同意書を得ている。母体病院の医師が看取りの判断後、家族の意向を確認し母体病院へ入院の移行等、入居者の状況に応じて家族の意向を確認し終末期の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練を行い実践力を身につけていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に火災・災害の訓練を行って身につけている。地域の方にも協力体制を築けるようにしている。	昼間・夜間想定避難訓練を定期的実施している。訓練の様子は写真を撮り記録として残している。全職員が消火器を使用した訓練を受け、初期消火ができる技能を身に付けている。地域住民より一時避難場所の確保や自動火災通報装置の登録先として協力を得ており、地域との協力体制を築いている。ホームには有事の際に備えた備蓄を整備している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	ホームは理念に沿って入居者それぞれが思いおもいに時間を自由に過ごすことを大切にし、本人の意思の尊重に努めている。食事時間も決められた時間帯に食べることを無理強いせず、入居者の意向を尊重している。本人不在の居室に入室する際は、必ず本人に入室する旨を伝えて入室する等、プライバシーに留意した支援に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や自己決定が出来るように日常的に支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースで生活して頂き、希望に添って支援している。職員の都合を優先しないよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好む身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの希望がばらばらで難しいが、楽しみなものになるよう努めている。準備や後片付けをお願いしている。	職員が交代で食事を調理し、入居者が食材の下拵えを行う等、入居者は職員とともに食事について関わりを持つ場面がある。行事食や誕生会には本人へ希望を聞き、好みのメニューを提供することで食への関心や楽しみに繋げている。地元の新鮮で旬の食材を使用し、季節感のある食事の提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすいようにカットしたり、食べる量や水分量に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、できない方には傍に付き声掛けや介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にポータブルトイレを設置し、いつでも使用出来るようにしている。介助が必要な方にはその方にあった介助をさりげなく行っている。	ポータブルトイレはその方の状況に応じて居室に設置し、入居者が昼夜を問わず使用できることで安心感に繋げるなど各入居者の排泄のスタイルを重視した支援を行っている。家族の金銭的負担軽減のため、リハビリパンツやパッドの使用数を職員間で検討し、適切な使用法を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩和剤や下剤の服用で調整を行っている。食事や水分も心掛け声掛けも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決まっているが、その日の体調や気分によって変更もできる。	1日3名を目途に入浴を実施している。毎日入浴できる準備をしており、入居者がその日の気分や体調により入浴の申し出にも応えられるよう臨機応変に対応している。入浴への拒否が続く場合は清拭を行い、清潔保持に努めている。入浴への無理強いせず、入居者が楽しく入浴ができる支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室のベッドで横になったり、ソファでうとうとする方、居室とフロアを往来し安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日数人の職員で確認し、臨時薬など体調変化を医院に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる方に出来る事をして頂いている。みんなの役に立つ事で生きがいを感じてもらっている。レクリエーションでは全員が楽しめ、気分転換の支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出ができなかったが、ドライブへ出かけたりしている。他科への受診をご家族と行かれている。	コロナ禍の為、以前のような外出支援はできていないが、感染予防対策をとりながら、ドライブや花見に出かけたり、外気浴を行うなど、現在の環境下でできる範囲で外出を支援し、入居者のストレス緩和ができるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じて小遣い程度のお金を持っている方もいる。ほとんどの方はホームで管理している。買い物が必要な時は職員が買ってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機や携帯電話を使用して居室でゆっくり話せるようにしたり、手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の塗り絵を壁に貼って季節を感じてもらったり、温度・湿度・換気に気がけ心地よく過ごせるようにしている。	制作することが得意な職員を中心に、季節毎の壁画をデザインし、職員と入居者が一緒に季節の壁画を完成させた。入居者は季節を感じ、また、入居者の喜ぶ姿が職員のやりがいにも繋がっている。共用空間は朝食と昼食後に換気を行い、手すり等は次亜塩素酸水で拭き掃除をする等感染症予防や臭気に注意を払い、入居者が居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーでは思い思いにくつろぎ、一人になりたい時は居室でのんびりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるよう本人やご家族と相談しながら配置したりし工夫している。	居室には入居者の作品を飾ったり、その方に応じて簡素な居室や、本人が以前から信仰していたキリスト教の十字架を祀って礼拝するなど、その方らしい生活の継続ができています。入居者によっては居室を自分自身で掃除するなど、入居者の能力に応じ、在宅生活を継続できる居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ポータブルトイレ・ベッド・テレビなど安全に使用出来るように工夫している。カレンダーや時計を配置し、自立した生活が出来るように努めている。		

自己評価および外部評価結果

グループホームゆうゆう 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える所に理念・基本方針を掲示し、職員は楽しく生活できるように支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で日常的な地域との交流はできていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームだよりを医院・薬局・支所等に置いていただき理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染拡大防止のため外部からの参加は出来ていないが、定期的に職員だけで会議を行い意見を聞きサービス向上に努めている。議事録は送付している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事などある時は、電話などで連絡をしている。ケアマネ間の連絡はあっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月ごとに身体拘束委員会を行い意見等を出し皆で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修があれば積極的に参加したいが、コロナ禍でできていない。職員間で注意しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に行けてなく理解できていない職員もあり、研修に参加していきたい。現在必要とする方はおられず必要な方がおられれば支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い理解し納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お会いしたり・電話などの時何でも話せるような関係を築くよう努めている。要望は職員間で共有早めの対応に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見や提案する機会があるので反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心が持てるようにされている。(資格手当等)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修なく行けていないが、働きながらトレーニングしている職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は個人的にはできているが、勉強会等の活動はなく質の向上にまではいっていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望があれば安心して生活して頂けるよう支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安・要望に耳を傾け安心して頂ける様な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サマリーなどを参考にプランを作成し、早く慣れて頂けるよう努めている。また、本人の様子を見てプランの再検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	楽しく会話をし、コミュニケーションをとり信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診・散髪等に連れて行ってもらったり家族の協力を得て共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会・外出もできてないが、電話・手紙等で交流が持てている。関係が途切れないよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事等に参加して頂き利用者同士関わり合えるよう、孤立する事がないよう声掛け、ケアに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても会った時は声掛け、様子を聞き、関係を断ち切らないように相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や行動の中から思いや・意向をくみ取ったり、希望・意向をお聞きし難しい時は皆で話し合い検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族に話を聞いてこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で本人の出来る事・心身の状態に合わせ把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議でケアプランの検討を行っている。モニタリングが必要な時はいつでも現状に合ったプランの作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、毎日の申し送りノートで、日々の様子が全職員にわかり見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに合ったニーズに合わせて柔軟な支援サービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、利用出来る事はその都度利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医院のため、本人・家族の希望を大切に、本人が納得して必要な受診を適切に受けられるよう支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化を訪問看護来所時に相談し、適切な受診が出来るよう支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時には、洗濯物・必要な物を持参し、その方の状態の把握と医院との情報交換に努め、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に説明をした上で、状態の変化に応じて家族へ相談し、他施設への事もお話している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、直ぐに医院へ連絡し指示を受ける。訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災・災害(水害)の訓練は定期的に行っている。地域の方の協力もお願いしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけやプライバシーに配慮した対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に耳を傾け、自己決定が出来るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、都合をを優先する場合は説明し理解して頂き希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪や髪の手入れは定期的に行っている。服は自分で選んで頂きできない方は一緒に行い支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中から食べたい物を聞いて、毎日のメニューを書き出している。手伝い出来る方にはお願いしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態に配慮し(刻み・トロミ)無理のない食事摂取に努めている。午前・午後と水分補給の時間を設け夜間にも居室で補給出来るようしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをして頂いている。忘れている方には声掛けを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自・各居室にポータブルトイレを設置し急な時の不安を取り除き失敗をせずプライドを持てている。昼間はトイレ使用している方が多い。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックシートを利用して水分補給の声掛けや、訪問看護時に相談し医師の処方による下剤等で予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回と回数は決まっているが、本人の体調や、希望に合わせて他者と交代したり、1日3人と無理なくゆっくり入浴して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファで居眠りしたり、日中でも安心して居室で休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を理解し、服薬時も本人が服用されるまで確認し、間違いの無いよう職員2人で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方が出来る事をし、張り合いや生きがいに繋がっている。裁縫や作品作りをされたりし、気分転換されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出があまり出来ないが、ドライブに行き車窓より楽しめた。コロナが落ち着いたら家族と外出したり、地域の行事に参加出来るよう計画している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設金庫で預かっているが少額持たれている方もいる。買い物にも職員と一緒にいたがコロナ禍で行けず、頼まれる方もいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は電話をかけて話され、手紙を書かれたら投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を家族が持って来られ、入居者が生けられフロアーなど見える所に飾っている。カーテンで光の調整・温度調整で心地良く過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで気の合う方とお話しされたり、居眠りされる方もいる。気の合わない方とのトラブルが無いよう工夫している。自室では1人でゆっくり過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを置いたり家族の写真を飾る等し、居心地良く過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが使いやすくわかるように、トイレ・自室等大きく表示しできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		